

はじめに

畜産は牛乳、肉、卵、蜂蜜など食生活を豊かにし、健康に生活することの幸せを与えてくれるとともに、命をいただく家畜と身近に親しむことにより、食と命のつながりを学ぶこともできます。また、家畜の排せつ物は有効な堆肥として農作物の生産に役立つなど、地域における資源循環に大きな役割を果たしています。

本県の畜産は、琵琶湖の恵みを受けた豊かな自然環境と、都市近郊という地理的条件を活かした産業として発展してきました。とりわけ、肉用牛生産は1戸あたりの飼育頭数が全国一の規模にまで進展し、特に、日本で最も古い歴史をもつ「近江牛」は、そのおいしさが高い評価を得ており、県を代表する滋賀ブランドのひとつとなっています。

近年の畜産をとりまく情勢は、子牛や飼料価格の高止まりによる生産コストの増加など厳しい経営環境に加え、米政策の見直しなど国の農政改革、さらには日EU・EPAやTPP11の発効という国際的な動きなど、大きな転換期にあります。

一方、家畜衛生の分野でも、平成30年9月以降の豚コレラの発生に見られるように、国境を越えた人や物の広域流通による口蹄疫などの悪性伝染病の国内侵入リスクは依然として高く、生産農場における飼養衛生管理基準の遵守がきわめて重要になっています。

そのような状況の中、県としましては、生産者をはじめ関係者のみなさまとともに、多様化する消費者ニーズに応える畜産物づくりを推進し、地域に根ざした安全安心な畜産物の安定生産を将来につなげていきたいと考えております。本冊子が本県畜産に対するご理解を深めていただく一助になれば幸いです。

平成31年3月

滋賀県農政水産部畜産課長
渡辺 千春